

合へは、鬼北町での状況を報告し、協議・検討をしていただくよう要請しており、現在、組合事務局で制度等を慎重に精査しながら、対応していただいている。いずれにしても、全国的な流れの中で、避けて通れない事案であると認識しており、当町としても、今後とも、組合を構成する団体との協調を図りながら、住民の方にも十分ご理解していただける「退職金制度のあり方」について、協議・検討して行きたいと考えている。

国・県補助事業および起債のあり方について

町長 平成17年度普通会計決算において、歳入総額に占める自主財源（町税、使用料、手数料、財産収入など）は、14億5千400万円（19・7%）となっている。これに対して、国庫支出金は、4億7千735万円（6・53%）、県支出金は6億3千660万円（8・71%）、町債は9億8千360万円（13・46%）となっており、これら国、県支出金と起債の合計は、歳入総額の実に28・7%を占めている。これらの財源は、地方自治の本旨として「住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする」本町にとつては、長期総合計画に示している種々の政策を推進する上で、非常に重要な財源となっている。自主財源が乏しく、ぜい弱な

財政基盤の本町においては、今後とも、国、県の補助事業の内容を精査の上、各種施策の具現化に取組んでいく所存である。

第3セクターへの支援について

町長 公益性を重視するか、営利性を重視するか、その法人の性格の違いから行政支援のあり方も異なる。今後、法人の性格および設立の目的に沿って支援するとともに、経営の合理化に努めるよう指導していきたい。

第3セクターの外部監査員について

町長 株式会社「森の三角ぼうし」および社団法人「鬼北町農業公社」は、監査役、監事それぞれ2名の内、1名について組織外から税理士が選任されている。就任年月日は、株式会社「森の三角ぼうし」が平成18年5月26日、社団法人「鬼北町農業公社」が平成18年5月30日である。

グリーンファーム安森の整理について

町長 現在、会社法に基づき株主総会で解散が決議された平成18年6月21日から平成19年6月20日までの1年間について「清算事務年度の決算」がなされている。

公的施設の有効活用、指定管理者制度の運用、点検および事故等への対応について

町長 保育所では、職員が日常的に点検し、必要に応じ修繕や使用停止、撤去等の措置を講じている。小学校では、毎月学校の先生が点

検を実施している。公民館で唯一、遊具を管理している愛治公民館では、年に2回職員が点検等を実施している。三島グラウンドの遊具は、平成18年度に点検し、使用に堪えない遊具は撤去した。集会所等に設置されている遊具は、区長さん、組長さんを中心とした地域住民の方々の協力により管理をしていた。いづれにしても、危険なものすべて撤去の方角で対策を講じていきたい。鬼北総合公園は、平成18年度から広域事務組合の管理となっているが、今後、指定管理者制度の導入はもちろぬ、維持管理全般について広域事務組合と協議していきたい。

程 内 覚 議員

鬼北町役場日吉支所の利用について

町長 合併の際にも、空きスペースの有効利用について協議・検討したが、一部を除き大部分が具体的な結論が出ないまま現在に至っている。この内、旧の議場については、議場としての役割が不要となったので、平成17年度に県の合併支援事業により、ステージ付きの小ホールとして改装し、住民等の文化活動の場として利用している。日吉地区の中心的な役割を備えた公的施設であり、今後の有効活用については、日吉地区地域審議会を中心に、地域の皆さんの意見や要望を聴取しながら、明確な

方向性を見いだしたい。
頑張る地方応援プログラムへの取り組みについて

町長 この制度の目的は、「やる気のある市町村が、自由に独自の施策を展開することにより、“魅力ある地方”に生まれ変わるよう、市町村独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取組む市町村に対して、地方交付税による財政支援を講じる」ものである。このため本町においても、2件の独自のプロジェクトを立ち上げ、「頑張る地方応援プログラム」に積極的に取り組むことにより、厳しい財政事情に対応したいと考えている。その内の1つが、「地球に優しい住宅団地の整備」プロジェクトの取り組みであり、近永アルコール工場跡地に整備計画中の住宅団地で、地元木材の利用促進、太陽光発電システムの推進、えひめAI・1の普及などの施策を展開することによって、環境に優しい住宅団地の整備を目指そうとするものである。

消防団の現状について

町長 消防団条例で定員を567名と規定しているが、現在499名の実員数で68名の定員割れとなっている。三島地区は、81名の定員が確保されているが、その他は、本団を含め定員割れとなっている。団員は、年齢層もばらばらで、21歳から58歳までの団員がいるが、20歳代12%、30歳代が34%、40歳